

東京フィル米国初公演

3月11日夜リンカーンセンターで

念願の百周年記念世界公演



三木谷理事長
2011年に創立100周年を迎えた東京フィルハーモニー交響楽団（理事長・三木谷浩史楽団社長）が3月、アジア・欧米6か国を回るワールドツアーを行う。新世紀を迎えた日本



を代表するオーケストラとして「21世紀のジャポニズム」を世界に発信する。米国デビューとなるニューヨーク公演（11日）でスタートするツアーは、スペインのマドリッド（14日）、パリ（16日）、ロンドン（17日）、シンガポール（20日）、バンコク（23日）を回る。指揮は大植英次。大植は桐朋学園で齋藤秀雄に師事、レナード・バインスタインの世界公演に同行して助手を務めるなど、世界的に活躍している。パリ、シンガポール、ロンドン、バンコク公演では、本紙連載中のバイオリンソロ、竹澤恭子が出演する。

創立100周年にあたる3年前に実施予定だったが、東日本大震災の影響で延期されていた。ニューヨーク公演は3月11日（火）午後7時30分から、リンカーンセンターのアルイス・タリー・ホール（ブロードウェイと65丁目角）で開催。プログラムは、黛敏郎の「バレエ音楽『舞臺』」、小山清茂の「管弦楽

のための木挽き歌」、ストラヴィンスキーの「バレエ音楽『春の祭典』」を予定。東京フィルハーモニー交響楽団・三木谷浩史理事長の話「音楽は人種や国境を越えて心に響く真の意味で

のグローバルな言葉です。それゆえオーケストラは、地球規模での社会的責任を果たしていくために極めて重要な存在であるといえます。100年にわたり日本で感動を伝えてこられたことを祝い、このたび、東京フィルならではのグローバルな言葉を世界にお届けできることをこの上なく誇りに思います」

ニューヨーク公演のチケットは50ドルと75ドル。購入は同ホールボックスオフィスか電話212・875・53350、または「Colincenter.org」から。